晩秋から春期に発生する病害

かさ枯病

病　原　菌：*Pseudomonas syringae* pv. *atropurpurea*
発 生 草 種：ベントグラス、ライグラス
発 生 時 期：晩秋～春期(特に早春期に発生が多く、病勢も激しい傾向にある)

特徴

- パッチは不整形や類円形で大小様々。
- 多くは赤褐色の葉枯症状を呈する。
- 葉身に赤みを帯びた壊死斑、水浸状斑、及び黄色のかさ(Halo)を形成することがあるが、グリーンの様に短く刈り込んだ場所では不明瞭なことが多い。

かさ枯病の症例

▲グリーン上のパッチは不整形に発生し、色味も現場ごとに異なることから生理障害との識別が非常に難しい。

かさ枯病の病斑の特徴として、葉身に水がしみたような病斑（水浸状斑）を形成する。ベントグリーンにかさ枯病が発生している場合、周囲のベントカラーにも発生が認められることが多い（モアでターンする際に感染するため）。

現場で診断する際には刈高の高いベントカラーに水浸状斑の形成がないかを観察することがポイント！

●弊社のおすすめ防除剤

芝生用殺菌剤

タフマジック®液剤

厄介な「かさ枯病」に有効な

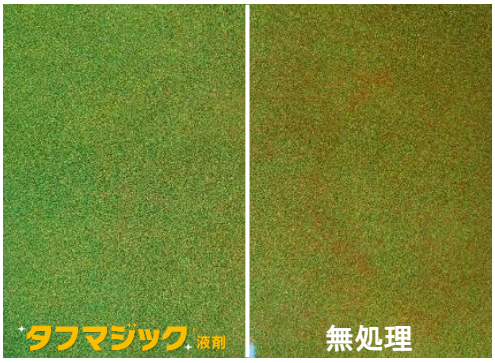
癒やしの魔法でタフなグリーンに!

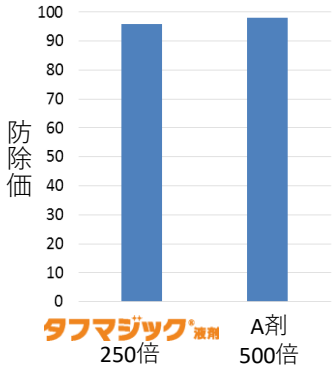
- 有効成分はカスガマイシン
- かさ枯病に予防と治療効果
- 他剤と交叉耐性を示さない

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用方法	総使用回数*
西洋芝（ベントグラス）	かさ枯病	250倍	0.5L/㎡	発病前～発病初期	散布	4回以内

*本剤及びカスガマイシンを含む農薬の総使用回数

かさ枯病への防除効果(圃場試験)





試験場所:㈱理研グリーン グリーン研究所 ベントカラー様管理圃場
試験規模:1㎡/区 4反復
散布方法:登録薬量、水量にて加圧噴霧器にて散布
発生程度:中発生
処理日:2021年11月17日、11月29日
接種日:2021年11月18日、11月30日
調査日:2021年12月6日
調査方法:目視による葉身の赤褐変などの発病面積率の調査及び防除価を算定
調査結果:対照剤と同等の高い防除効果を示した。薬害は認められなかった。

ドラード®液剤

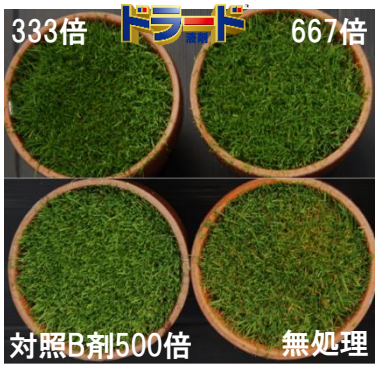
も、かさ枯病に登録があり ローテーション剤としておすすめです!

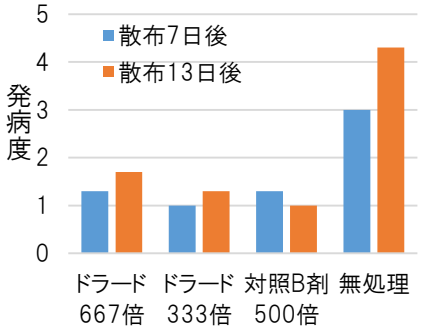
作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用方法	総使用回数*
西洋芝（ベントグラス）	かさ枯病	333～667倍（薬量として0.3～0.6mL/㎡）	200mL/㎡	発病前～発病初期	散布	6回以内

※適用表より抜粋

*本剤及びベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数

かさ枯病への予防効果(ポット試験)





試験場所:㈱理研グリーン グリーン研究所 ガラス温室内
試験規模:直径15㎝素焼鉢 3反復
水量:ドラード液剤 0.2L/㎡ 対照B剤 0.5L/㎡
病原菌接種:薬剤散布翌日に接種
調査方法:発病度 (0:発病なし～5:全体が赤褐変)
調査結果:対照B剤と同等の予防効果を示し、無処理区と比較して予防効果が認められた。薬害は認められなかった。

Ⓡ㈱理研グリーン登録商標

株式会社 理研グリーン

2024.10.22